

# 令和5年度幼稚園経営計画

園名 大崎上島町立大崎上島幼稚園

園長 川本 美陽

## I 【教育目標】

心豊かに、のびのびとたくましく生きぬく子供

## II 【経営理念】（ミッション・ビジョン）

### 【ミッション】（自園の使命）

大崎上島の将来を担う たくましく生きぬく子供

～ ふるさと大崎上島を愛する子供を育てる ～

### 【ビジョン】（自園将来像）

～ 学び合い自ら力を伸ばす幼稚園づくり ～

- ・大崎上島の豊かな自然や伝統文化を生かした教育実践を行う。
- ・地域の幼児教育を推進する役割を担うと共に、さまざまな個性や特性をもった幼児が、主体的に遊び、学び合える幼稚園づくりをめざす。
- ・全教職員で園児一人一人の発達を大切にしながら、義務教育及びその後の教育の基礎を培う教育実践を行う。

### 【めざす幼稚園像】

園児にとって

- 明日が楽しみになる幼稚園
- 一人一人が力を発揮できる幼稚園
- 夢や希望がもてる幼稚園
- 大崎上島が大好きな幼稚園

保護者にとって

- 通わせてよかったと思える幼稚園
- 安全で安心できる幼稚園

地域の方にとって

- 園児が元気いっぱい明るい幼稚園
- 地域の教育力が生かされる幼稚園

教職員にとって

- 使命感とやりがいもてる幼稚園
- 創意・工夫を生かせる幼稚園
- 自ら学び、互いに認め合い、協働する楽しさを感じられる幼稚園

### 【めざす子供像】

○豊かに感じ表現する子

感じたことや考えたことを、伝えようとする子

○自分で考える子

善悪の判断する力を身に付け、自分で考えて行動できる子

○心も体もたくましい子

基本的な生活習慣を身に付け、自立をめざして生活を送ろうとする子  
進んで運動遊びを行い、最後まであきらめないでやろうとする子

### 【めざす教師像】

- 専門職としての自覚をもち、謙虚に学び続ける教師
- 園児・保護者と良い関係を築き、仲間と助け合う教師
- 振り返りを生かした幼児教育の実践を行う教師

### Ⅲ 1 現状の分析

前年度の成果と課題 ◎成果 △課題	
幼児の健全やかな成長	<p>◎知識の基礎を育むために「大崎上島学」を基盤に「話すことが楽しい」と言える子供育てを目標に取り組みを行った。具体的な方策として、活動の振り返りの場を設定すること、全職員が全園児と1日1回は会話をすることを実践した結果、自分から「先生あのね」と声をかける子供が増え、振り返りの場のおいても話をよく聞き、自分なりに考えて思いや意見が言えるようになってきた。</p> <p>△分からなくても黙っているという課題がある。</p> <p>◎最後まで取り組もうとする子供を育てるために道具箱の片付けに取り組んだ。発達段階や個々の育ちにに応じて、環境構成を工夫したり片付け方の方法をステップアップさせたりしながら取り組んだ結果、全員片付けができるようになった。</p> <p>△共有の遊具や教具等の片付けに取り組む子供とそうでない子供がいることが課題である。</p> <p>◎思考力・判断力の基礎を培う取り組みとして、危険を「予見する力」を身に付ける取り組みを行った。ICT教材の活用や生活の中で起こったことを題材に、子供たちと一緒に考えていった。子供たち自身が方法を考えたことで、一人一人が「危険なこと」について意識できるようになってきた。</p> <p>◎基本的な生活習慣を確立するために「あいさつ」と「丁寧な手洗い」に取り組んだ。家庭と連携を取りながら行ったことで、進んで挨拶をする子供が増えてきた。丁寧な手洗いはできるようになった。</p> <p>△返事と手洗い後の手を拭くことに課題がある。</p>
信頼される幼稚園	<p>◎「大崎上島学」を推進するために、民話の語り聞かせや自然・農業体験を計画実施した。お世話になった方への感謝の気持ちや大崎上島を大切に思う気持ちが育ってきている。</p> <p>△体験活動が年長児中心となった。地域の交流では年中・年少児が参加できにくい。</p> <p>◎幼小連携の推進では、小学校の先生による教室を開催してもらったり、行事を観させていただいたりしたことで学び合うことができた。</p>

### 2 本年度の重点目標

<p>○生きる力の基礎を育むために「大崎上島学」を基盤に民話の語り聞かせの継続と、自然体験の充実を図り、「伝え合うことが楽しい」という子供を育てる。</p> <p>○「みんなで一緒に片付ける。」を目標に取組、自立心と協同する力を育む。</p> <p>○運動遊び・集団遊びを計画的に実施し、「体を動かして遊ぶことが大好き」な子供を育てる。</p> <p>○「すすんで挨拶・返事」に取組、基本的習慣を身に付ける。</p> <p>○「大崎上島学」を推進する。</p>
--

### 3 中期経営目標及び短期経営目標

項目	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価項目	指標
幼児の健全やかな成長	主体性を育み、知識の基礎を培う。	◎「伝え合うことが楽しい」と言える子供を育てる。	・「話したい。伝えたい。」と感じられる体験活動を充実させ、発表の場や話しを聞く時間を設ける。	・全体集会や学級での発表回数場の設定【教師】 全体集会週1回 学級1日1回 ・話すことを楽しむ子供の姿【年少】 ・伝え合うことを楽しむ子供の姿【年中・年長】	100% 100%
	最後まで取り組もうとする子供の育成	◎片付けを丁寧に最後までやりきる。	・片付けを丁寧に最後までやりきる。	・共有の遊具・教具の片付けの達成度(年中・年長) ・道具箱の整理整頓(年少)	90%
	思考力・判断力の基礎を培う。	◎危険を「予見する力」を身に付ける。	・ICT教材や絵本などを使った指導を行う。	・危険を回避(遊具の使い方・遊び方等)の仕方の指導(月1回以上)	90%
	基本的な生活習慣を確立する。	○気持ちのよい挨拶や返事ができるようになる。  ○丁寧な手洗いを定着させる。	・教師自らが率先して模範を示し、園児が進んで実践した姿を肯定評価する。 ・あいさつ月刊を設け、生活カレンダーを利用し家庭と協力し合って取り組む。  ・遊んだ後、トイレ後、食事の前の手洗いを一斉指導する。	・学期ごとの教師の自己評価 ・あいさつ・返事の教師のみとり ・生活カレンダーの達成率  ・丁寧な手洗いができ、ハンカチで拭けるようになった割合。	100% 100% 90% 90%
	健やかな体の育成	◎「体を動かして遊ぶことが大好き」な子供を育てる。	・毎日の運動遊びの継続。	・運動遊び計画の実施率【毎日】	100%
	大崎上島を愛する子供を育てる。	◎「大崎上島学」を推進する。	・大崎上島の民話の語り聞かせを行う。 ・大崎上島自然・農業体験の実施。	・実施回数 年6回 ・実施回数学期に1回	100%
	連携教育を充実させる。	○幼・小連携教育を推進する。	・保育内容や行事を工夫し、園児・児童と一緒に活動させる。 ・職員による授業の参観を行う。	・学期に1回以上実施  ・年間1回以上	100%
信頼される幼稚園	開かれた園づくりに努める	○積極的な情報発信を行う。	・情報の公開を積極的に行う。ホームページの更新、各種たよりの発行を行う。	・ホームページの更新随時 ・園だより月1回 ・学級だより週1回 ・保健・食育だより月1回	100%

令和5年度 幼稚園経営計構想図 大崎上島幼稚園

幼稚園教育要領  
大崎上島町教育  
推進プラン

幼稚園教育目標  
心豊かに、のびのびとたくましく生きぬく子供

幼児の実態  
地域・保護者  
の願い

めざす教師像

- ・専門職としての自覚を持ち、謙虚に学び続ける教師
- ・園児・保護者と良い関係を築き、仲間と助け合う教師
- ・振り返りを生かした幼児教育の実践を行う教師

めざす子供像

- ・豊かに感じ表現する子
- ・自分で考える子
- ・心も体もたくましい子

めざす幼稚園像

- ・夢や希望を持ち、一人一人が力を発揮できる幼稚園 【園児】
- ・安全で安心ができ、通わせてよかったと思える幼稚園 【保護者】
- ・自ら学び、互いに認め合い、協働する楽しさを感じられる幼稚園 【教職員】

【研究主題】

「のびのびと主体的に遊ぶ子供をめざして」

～ 個の実態に合わせた教師の援助と環境構成のあり方について～一年次

保育で

経営の重点目標

生活で

幼児の健やかな成長（知・徳・体）

信頼される幼稚園

① 主体性を育む。

- 「話したい。伝えたい。」と感じられる体験活動を充実させ、気付きや考え、思いを伝えようとする意欲を育む。

② 学習の基礎を育む。

- 良い話の聞き方(相手の顔を見る・体を止める)を知らせ、話を聞こうとする姿を育む。
- 自分の使った物は、自分で片付ける取り組みを通して、何事にも最後まで取り組もうとする子供を育てる。

③ 英語に親しむ。

- ALTによる英語で遊ぼうの時間を通して、英語を楽しみ、親しみを持つ子供を育てる。

④ 思考力・判断力の基礎を培う。

- ICT教材や絵本などを使った指導を行い、危険を「予測する力」を育む。

⑤ 豊かな言葉・心を育む。

- 職員による毎日の絵本の読み語り活動を通して、豊かな言葉・心を育む。

⑥ 健やかな体の育成

- 毎日の運動遊び・戸外遊びの推進・週1回の集団遊びを通して「体を動かして遊ぶことが大好き」な子供を育てる。

⑦ 基本的な生活習慣の確立

- 返事・挨拶をすすんでしようとする子供を育てる。
- 丁寧な手洗いの定着を図る。

① 「大崎上島学」を推進する。

- 大崎上島の民話・自然や農業体験を保育活動に位置付け、大崎上島の魅力・楽しさを体感し郷土を愛する心を育てる。

② 幼・小連携教育の推進

- 保育内容や行事の工夫を行い、園児・児童と一緒に活動をさせ、小学校生活への憧れの気持ちや期待感を育む。

③ 特別支援教育の充実

- 月1回の特別支援研修保育を実施し、教職員の指導力向上を図る。

④ 情報の発信と収集

- 園だより(月1回)・学級だより(週1回)保健、食育だよりホームページの更新を行う。
- 全職員で全園児を育てることを念頭に、保護者・地域の方とのつながりをもつ。

⑤ 園評価の実施と改善

- 適切な園評価目標の設定と実践に努め、評価・改善を行う。

生きる力の基礎を育む